

Title	大型計算機センタの役割
Author(s)	西川, 清史
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1997, 104, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/66206
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

大型計算機センタの役割

大阪大学大学院基礎工学研究科教授 西川 清史

近年のパーソナルコンピュータの性能向上と価格の低下は予想を超えて進んでいる。このように環境が変化すると、ユーザが大部分の処理を身近で行うようになり、いわゆる分散処理が進むことになる。そして大型計算機センタの役割は、従来のメインフレームコンピュータによる汎用処理サービスから、高速処理サービス、大容量記憶サービス、大規模ネットワークサービスに特化するであろうと言われてきた。

ここで本学の大型計算機センタのサービス内容の変遷を見ると、まさにこれらの方向を先取りしてきたことがわかる。まず、学内ネットワーク ODINS の運用開始が挙げられる。ODINS は運用開始後も2期整備などで引き続き大幅な拡大整備が行われ、学内 LAN としてはその技術の新進性と規模においては世界屈指のものである。

つぎは、昨年度に行われたスーパーコンピュータの更新である。新しい機種は従来の20倍の処理能力を持つとともに、ファイルサーバとリモートエントリの充実により上の分散処理環境により適したシステムとなっている。このサービス内容については、本ニュースの第103号に詳しく述べられている。

そして、今年度は汎用コンピュータの更新が予定されている。その新しいシステムの仕様内容は近いうちに公開されるが、それは上の分散処理環境を強く意識したものであらうと思われる。

このように、大型計算機センタに期待される役割は時代とともに変化し、センタもこれに応じてサービス内容を更新してきたのである。

さて、今後のサービス需要はどのように変化していだろうか。間違いなく言えることの一つは、ネットワーク中枢としてのセンタの役割の一層の増大である。具体的にはネットワークサービスの信頼性の向上と高速化であらう。まず信頼性の向上については、学内ネットワーク ODINS のインフラストラクチャとしての位置付けが高まり、それに伴ってより高い信頼性が要求されることになるだろう。情報ネットワークは、そろそろ電気や電話と同じ様に「正常に動作していてあたりまえ」となりつつある。

次に高速化については、メディアの多様化につれて高速化への要望がますます強くなってきている。このためには学外へ繋がるネットワークを自由に選べるようにし、要求に応じた通信速度を確保できることが必要になるだろうと考えている。